



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日：2014年10月8日

氏名：山本正伸

所属機関・職名：北海道大学大学院地球環境科学研究院・准教授

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp. 353 iMonsoon
乗船時の役割	Organic Geochemist
出張期間（移動含む）	2014年10月1日 ～ 2014年10月4日
実施場所	高知県南国市高知コアセンター
実施による成果と今後の計画	
<p>高知コアセンターにて、過去にインド洋で掘削されたコアを観察し、インド洋堆積物の特徴を理解した。日本人乗船者4名の研究目的を相互に紹介し、共同研究の可能性を検討した。</p> <p>今後は、船上でのサンプルリクエスト協議にむけて、共同研究の可能性を話し合う。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後2週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2014 年 10 月 8 日

氏名：安藤 卓人

所属機関・職名：北海道大学大学院・理学院・博士後期過程 2 年

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp. 353 iMonsoon
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2014 年 10 月 1 日 ~ 2014 年 10 月 4 日
実施場所	高知県南国市高知コアセンター
実施による成果と今後の計画 高知コアセンターにおいて、今回の乗船する航海の掘削地点の近くで過去に掘削されたコア (ODP Leg. 121-758A, Leg. 117-717C) を用いて、コア記載・スミアスライド作成のトレーニングを行なうと共に、インド洋の堆積物についての解釈・議論等を行なった。また、日本人乗船者同士で研究計画やサンプリング計画を発表しあい、綿密な議論を行なった。 今後は今回得た知識や見解を参考にしつつ、Sedimentologist として必要なコア記載の勉強を更に進め、乗船に向けての準備を行なっていく。	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

氏名： 臼井洋一 _____

所属機関・職名： 独立行政法人海洋研究開発機構・研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	Expedition 353 Indian Monsoon Rainfall
乗船時の役割	Paleomagnetist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2014 年 10 月 2 日 ~ 2014 年 10 月 3 日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画 まず、研究航海の背景の整理や各自のサンプルリクエスト・研究計画について確認し合い、議論を行った。この議論を元に、乗船時のサンプルリクエストの調整や共同研究の提案を行っていく。 続いて今回再掘削を行う ODP Site 758A および岩相の類似性が期待される Site 717C について、コアセンターに保管されているコアを用い、肉眼観察とスミアスライドによる観察を行った。これにより、研究対象として最適と思われる試料の検討をつけることが出来た。 今後は船上作業に向け、国内以外の研究者、特に同じ Paleomagnetist と議論を行い効率的な分析体制を構築する。	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2014 年 10 月 15 日

氏名：浦本豪一郎

所属機関・職名：海洋研究開発機構・外来研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	Expedition 353 Indian Monsoon Rainfall
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	なし
実施場所	海洋研究開発機構高知コア研究所
<p>実施による成果と今後の計画</p> <p>初日の前半は、打合せを行い、研究航海の背景の整理や各自のサンプルリクエスト・研究計画について議論した。この議論を元に、乗船時のサンプリングの協力体制や共同研究の提案を行っていく。</p> <p>初日の後半～二日目にかけて、今回再掘削を行う ODP Site 758A および岩相の類似性が期待される Site 717C について、高知コア研究所に保管されているコアの肉眼観察とスメアスライドによる観察を行った。これにより、研究対象として想定される試料の検討をつけることができた。</p> <p>今後は、EPM ならびに海外の Sedimentologist と連絡を取り合い、効率的な船上作業の体制を構築する。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。